

# 第3回 江戸川区立図書館基本計画検討委員会 議事録要旨

---

日時：令和5年10月20日（金）

午後2時00分～4時03分

場所：江戸川区立中央図書館 視聴覚ホール

## 1 開会

## 2 学識経験者による講話

藤田利江 全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー「私が見た学校図書館」

- ・学校図書館とは
- ・江戸川区読書科の経緯と課題
- ・荒川区の学校図書館支援事業
- ・写真で見る学校図書館

## 3 報告

### (1) 「江戸川区立図書館に関するアンケート」報告

- ・「江戸川区立図書館に関するアンケート」の集計・分析結果について、安田（健）委員より説明。

## 4 議事

### (1) 2030年に向けた基本方針・取組（子ども読書活動推進）

- ・現在の子ども読書活動推進に関する取組状況について竹内委員より説明。
- ・子ども読書活動推進に関する基本方針・取組について安田（健）委員より提案。
- ・委員による意見交換

<各委員の主な意見>

- 12歳以下の子どもたちが区立図書館に行かない理由として、「読みたい本がない」という理由が挙げられていた。学校図書館で人気のある本を調査し、区立図書館でそれを共有するのはどうか。学校図書館に行って、読みたい本を誰かが借りているとか、続きを読みたいが途中でやめてしまうこともある。そういう子のニーズをつかむと良い。
- 学校の読み聞かせボランティアに、今月この学年に読んでほしい本など、子どもに読んでほしい本の実物やリストを、学校や区立図書館から提供してほしい。それぞれのボランティアが考えて選んでいるが、選ぶための指標があるとありがたい。

- 区立図書館から各学校に司書が派遣されているので、司書が先生方にどんな本を読んでほしいかをきき、選ぶ。それぞれの館できいてきた情報を共有して、リストにまとめれば良いのかなと思う。
- 学校によっては、教科書で紹介されている本を注文したいと言われることもたくさんある。先生方とのコミュニケーションでいろいろな本を入れることもできるかなと思う。
- 区立図書館では「よんでみましょう」というリーフレットを毎年作成しており、区立小学校の全児童に配布している。また、全 12 館の図書館のカウンターに置いている。ブックリストという意味では、これも活用できるのではないかな。
- 「よんでみましょう」はホームページにも掲載している。小学校高学年、中学年、低学年に分かれていて、適したものを選べるようになっている。区立図書館の児童担当が 1 冊 1 冊読み、文章も書いている。活用いただけるようであればありがたい。
- ブックリストにはページ数と読書にかかる所要時間の目安が記載されていると良い。15 分くらいの隙間時間に読みたい本、数日間かけて少しずつ読みたい本など、使い分けをして読んでいる子もいるので、子どもが借りるときにも助かる。
- 江戸川区の図書館に行って、とても良い展示があったが、展示されている本のリストがなかった。リストを作って、あとで借りたり読めたりできるような取り組みは必要かなと思う。
- 子どもが読み手となって絵本の読み聞かせを開催すると、大人が読むものとは違う感動があるのではないかな。
- 高齢者施設などに読み聞かせに行くが、子どもがやってくれたら高齢の方も喜ぶのではないかな。小学生たちに、近くの施設に行って本を読んでみましょうと言ったら、一生懸命読むのではないかな。そういう活動も考えていただくと良いのかなと思う。
- 提案を受けてこれが進めば素晴らしいだろうなという期待感を持った。区立図書館から学校図書館への司書派遣について、校長会で図書館や読書に関するアンケートをとった際、週 1 回だと事務的な作業で時間が終わってしまうので、ぜひ週 2 回派遣をお願いしたいという声がたくさんあった。
- 区立図書館と学校図書館の配送の仕組みは、ぜひ検討してほしい。この学年の子たちに読ませたいという本をパックにして、各校に回してもらえれば、子どもたちが本に触れる機会が増えると思う。また、教員がパソコンで選書できるようになればありがたい。特に調べる学習に関しては、学校図書館の本だけでは少ない。区立図書館から多くの資料を貸してもらえると読書や調べる学習がさらに進むと思う。
- GIGA スクールに関して、他区ではデジタルブックが導入されている場合もある。タブレットで本が読めるということも考えてみて良いのかなと思う。それを通じて子どもがこの本を読みたいという機会を得られると良いのかなと思う。

- 篠崎子ども図書館を起点にするのも良いが、移動図書館として、子どものもとに自ら向かうのも良いと思う。その点でカフェ機能のある移動図書館は魅力的である。簡易的なイス等も常備し、公園など好きな場所で読書ができると楽しそうだ。
- 10代の子たちが図書館を利用しない理由として、読みたい本がないという話があった。学校図書館に本を借りに来た子どもたちが、まずマンガから読みたいと言っていた。マンガをきっかけとして、ちょっと長い本や小説など文字の多い本を読むらしい。マンガが読める環境を作ると、子どもたちは自分で調べて読んでいくと思う。
- マンガが貸し出されるようになれば間違いなく人が来るし、すぐ全部が貸出になる状況になると思う。子どもがマンガから進んでいくというのはあるし、マンガは必要という気がするが、レンタルコミック屋が図書館の中にあるような感じになってしまうのではないかといった懸念はある。もう少しいろいろ考える必要があるのかなという気がする。
- 区立図書館では2つ大事にしていることがある。1つは書店との共存・共栄をはかりたいということで、マンガを無条件で買い始めた場合、書店経営を直撃してしまうのではないかと。もう1つは、マンガは長く保存する装丁ではなく、荒く扱おうとすぐに壊れてしまう。そのため慎重に考えている。マンガを一切入れないと考えているわけではない。
- ぜひお願いしたいのが、地域課題について学ぶための、区立図書館のコレクションづくり、学校図書館のコレクション充実である。調べる本が足りないのと同時に、地域資料が足りない。特に小学校3、4年生は本当に使いたい資料がないのが現状で、ぜひ力を注いでもらえると学校は助かると思う。
- 例えば中学校では、地理でまちづくりについて、地図などで地域の分析をして、地域の課題を見つけ出して、どう解決したら良いか考えようという課題がある。そういうときに印刷物の地図がない。デジタルの地図と両方整えることが必要である。
- コロナ前に書店商業組合で大規模な図書の展示を行い、そこへ学校の先生に来ていただいて選書するというのをやっていた。その際、新任の先生で引き継ぎがなくどうしていいかわからないという方がいらっしまった。そういう先生に、選書の仕方とか、おすすめの本などを伝える、そこにボランティアの方、学校に関わるいろいろな方ももっと来られるような場を作るのも良いのではないかなと思う。
- 子どもたちの本離れを防ぐには、すぐに、簡単に、ほしい本が手に入る環境を作っておくことが大事なのかなと思う。それができないとインターネットに逃げるのかなと感じる。アンケート結果に「時間がない」とあった。今の小中学生は本当に忙しくて、図書館に行けない。読みたい本がないということも、図書館に行って探したけれどなかったということではなく、そもそも行く気がなく、学校図書館にある本でいいかなと思っているということではないか。そうすると、区立図書館の本をいかにすぐに手元に届けるのかに行きつくのかなと思う。子どもたちに「本はあるか」ときいてみると「いる」と言ってくれる。「何で」ときくと「インターネットって自分のほしい情報がすぐ手に入るけれど、本はけっこう大変だ」と。「だ

けど、自分が求めている情報もいろいろ知れる」と言っていた。環境が整うのと同時に、それぞれがそこに力を注いでいかなければならないと思う。

## 5 事務局からの説明

### (1) 次回の予定

- ・次回の会議は12月1日（金）午後2時開催。会場は江戸川区立中央図書館 視聴覚ホールとする。

## 6 閉会



議事の様子

### □委員構成

学識経験者	2名
書店関係者	1名
学校関係者	2名
地域関係者	4名
江戸川区民	4名
江戸川区職員	3名
図書館職員	2名

欠席 4名（学校関係者1名、江戸川区民2名、江戸川区職員1名）

※代理出席 1名（江戸川区職員）

□傍聴者 7名

□配付資料

【資料1】「私が見た学校図書館」資料

【資料2】「江戸川区立図書館に関するアンケート」報告

【資料2（別紙）】「江戸川区立図書館に関するアンケート」調査票

【資料3】「江戸川区立図書館に関するアンケート」集計

【資料4】【提案】2030年に向けた江戸川区立図書館の方向性  
（「子ども読書活動推進」に関する内容）

【参考資料1】参考事例（子ども読書活動推進）

【資料番号なし】【第1回より】江戸川区立図書館が今後目指す姿（仮）